

子宮頸がんとは



子宮頸がんは若い女性に急増しているがんで、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染によっておこります。ヒトパピローマウイルスはありふれたウイルスで、ほとんどは免疫機能により排出されますが、一部は排出されず少しずつ変化し、5～10年かけて、がんになっていきます。

子宮の入り口付近に発生することが多いので、婦人科の診察で観察や検査がしやすく、発見されやすいがんです。

日本全国で1年間に約11,000人が子宮頸がんと診断されます。20歳代後半から増加して、40歳代でピークを迎え、その後横ばいになります。

子宮頸がん検診について

定期的な検診を受けることで、前がん状態といわれるがんになる前の状態を見つけることができ、この状態でみつかれば治療後の妊娠・出産も可能です。

20歳以上女性は、2年に1回、お住まいの市町、職場の健康診断、人間ドック等で受診しましょう。



乳がんとは

乳がんは、乳房にある乳腺にできる悪性腫瘍です。外から触ってわかるので、早期に見つかることが多く、比較的治りやすいがんです。日本人女性では、乳がんの罹患率は胃がんを抜いて第1位となっています。乳がんの発症は30歳代後半から急激に増加し、40歳代後半でピークになります。最近では60歳代に再び罹患患者数が多くなっています。

乳がん検診について

乳がんは治療法が進んでおり、早期に見つけて適切に治療すれば9割以上は治癒が期待できます。そのために大切なのが検診です。乳房X線検査(マンモグラフィ)は科学的に乳がんによる死亡率の減少効果があると証明された方法です。

40歳以上の症状のない女性は、2年に1度、定期的な乳がん検診受診が必要です。





大腸がんとは

大腸がんは 40 歳ごろから増え、女性のがんの死亡原因の第 1 位、男性では第 2 位です。年間 5 万人以上の方が亡くなっています。早期の大腸がんはほとんど自覚症状がありません。しかし、早期発見すれば 95%以上の方が治ります。

「早期の大腸がん」では自覚症状がほとんどないため、“症状が出たら病院に行く”と思っていると進行している場合があります大変キケンです。

大腸がん検診について

「大腸がん検診」は症状のない方を対象に、40 歳から毎年 1 回の「便潜血検査」を行い、がんの早期発見・早期治療につなげていきます。便潜血検査は自宅で便をとるだけの簡単な検査で痛みや食事制限はありません。提出日に合わせ 2 日分の便をとり、指定の窓口へ提出します。

